

# 報 告

## ヨーロッパ・アスベスト・フォーラム報告

### ——日本の石綿総合対策研究会との比較——

石 原 一 彦

- I. はじめに
- II. ヨーロッパ・アスベスト・フォーラム報告
  - 1. ヨーロッパ・アスベスト・フォーラムの概要
  - 2. セッションB「アスベストと専門職の展望」における報告の概要
- III. 日本の石綿問題総合対策研究会との比較
- IV. おわりに

#### I. はじめに

2016年9月30日、10月1日に、オランダ、アムステルダムで開催されたヨーロッパ・アスベスト・フォーラムに参加してきた。本稿では、このフォーラムの報告とともに、日本の石綿問題総合対策研究会との比較から、日本とヨーロッパにおける現在のアスベスト問題の現在の主要課題について若干の考察を加えたい。

#### II. ヨーロッパ・アスベスト・フォーラム報告

##### 1. ヨーロッパ・アスベスト・フォーラムの概要<sup>1)</sup>

ヨーロッパ・アスベスト・フォーラムの開催日時等の概要は以下のとおりである。

①開催日時：2016年9月30日（金）（フォーラム）、10月1日（土）（ワークショップ）

②場所：NH Grand Hotel Krasnapolsky

アムステルダムの都心部に位置する超高級ホテルで開催されている。

③参加費用：フォーラム一般参加者 720 ユーロ（約 87,500 円）、学術関係者と被害者団体 360 ユーロ（約 43,700 円）、ワークショップ 150 ユーロ（約 18,200 円）。一般参加者は、フォーラムとワークショップ双方に参加すると 10 万円を超える非常に高額な参加費である。学術関係者及び被害者団体は半額となっているが、それでも高い金額である。これに付加価値

税が付加される。

- ④主催者：ヨーロッパ・アスベスト・フォーラム
- ⑤スポンサー：メインスポンサー SHIELD GROUP 他、アスベスト除去業者、法律事務所などがスポンサーになっている。
- ⑥発表数：19 題
- ⑦参加者：約 70 名程度、オランダを中心とするヨーロッパ諸国からの参加が主体であるが、アメリカやニュージーランドなどからの参加もある。発表者の一人である英国の Mavis Nye 女史は、おそらく世界で最初の中皮腫が完治した患者とされる。彼女は、2009 年に中皮腫と診断され、医学治療や化学療法に耐え、2 年間の Keytruda 薬による治療を経て、彼女は“full response”を得た。彼女の身体には、中皮腫の形跡は残っていなかった。彼女は、世界的な中皮腫戦士として、議会や多くの会議・会合で話し、いくつかの本を出版し、ブログを更新している。2016 年には、彼女は英国市民表彰を受けている。



写真 1 会場の風景



写真 2 フォーラム・アワードの表彰式

- ⑧フォーラムのプログラム (2016 年 9 月 30 日)

#### **Program 2016**

Registration and light continental breakfast

Welcome by Yvonne Waterman (EAF Foundation)

Introduction of the Conference Chairman, Hans van der Wart (SGI) and Session Chairmen Marcel Brouns (SGI) and Kees van Dongen (Ascert)

#### **Plenary session in the Grand Ballroom**

Opening speech, Kees van Dongen (Ascert)

The morphology of asbestos: the real killer, Marcel Brouns (SGI)

Raising awareness for real estate owners and contractors, Mark Wit (Oesterbaai)

Break and refreshments

Putting asbestos policy into practice at Schiphol Airport, Jeroen Kersten (Sodexo)

Keynote speech. Hope for the future, asbestos victims Mavis & Ray Nye

Luncheon in the Winter Garden

Exhibition Photo exhibition, Tony Rich (a.k.a. Asbestos Hunter, Asbestorama)

Cabinet exposition Cabinet exposition of asbestos materials, Harry Vonk (Teamplayer)

### **Session A Asbestos and its impact on society**

Preventing fear: communicating in asbestos disasters, Frank Peters (Virtus Communications)

Asbestos in Denmark – hot topic or lost topic?, Claus Dyring (Dansk Bygningsanalyse A/S)

Health and safety for the fire brigade, Jetty Middelkoop (Amsterdam-Amstelland Fire Brigade)

Raising awareness for home owners: lessons from Australia, Jonathan Simnett (independent asbestos assessor)

Housing associations: asbestos, a sensitive subject, Jan Kees Gijbers (Housing association De Alliantie)

The Polish National Asbestos Eradication Policy, Jaroslaw Nyzio (Polish Labour Inspectorate)

Treating asbestos diseases, the Erasmus MC Hospital

Panel debate

### **Session B Asbestos & Professional perspectives**

Innovative asbestos removal, Dennis Kierkels (MiniContainment)

Managing asbestos in a national estate, Ron Symonds (Royal Mail)

Removing all Dutch asbestos roofs by 2024, Harry Vonk (Teamplayer)

Asbestos in building rubble: a health risk? Ingeborg Smit (Antea Group Nederland)

Asbestos in real estate: a risky investment? Arjan Endhoven (BDO)

Due Diligence at the UN Office in Vienna, Heinz Kropiunik (Aetas)

Shaken and stirred: asbestos in buildings after an earthquake, Terry Coleman (Coleman Consulting)

Panel debate

### **Plenary session** in the Grand Ballroom

Special Recognition Award

Concluding speech, Yvonne Waterman and Hans van der Wart (Shield Group International)

Convivial closing drinks for networking

### ⑨ ワークショップのトピック

1 Due Diligence and insurance

2 Asbestos removal techniques

3 Raising awareness and improving communication

4 Victim related issues

## 2. セッション B 「アスベストと専門職の展望」における報告の概要

### (1) Innovative asbestos removal, Dennis Kierkels (MiniContainment)

アスベスト除去技術についての説明であった。写真3のような器具を用いて、全くアスベストに触れずに暴露も受けない状況を作り出す。屋上の配管や、パイプの接合部等での適用が紹介された。居住者・使用者が在宅のまま施工が可能で、低価格であるとされる。

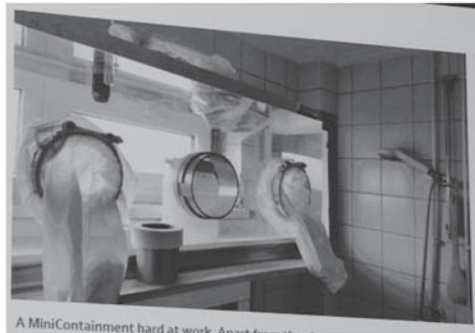


写真3 アスベスト除去機器

### (2) Managing asbestos in a national estate, Ron Symonds (Royal Mail)

英国の Royal Mail 社におけるアスベストの管理についての報告であった。Royal Mail 社の不動産におけるアスベストの使用実態情報と、アスベストに触れてしまった場合の対処の仕方などについて説明があった。

### (3) Removing all Dutch asbestos roofs by 2024, Harry Vonk (Teamplayer)

2024年までにオランダのすべてのアスベスト屋根材を撤去する計画についての報告であった。波板屋根材とスレート材などの総面積は、約2億㎡と想定される。約60万戸の住宅と6千の産業用建物と8万5千の農業用建物と2万1千のその他建物、合計71万2千棟が対象となる。人々の収入状況等に応じて支援すべくキャンペーンを展開すべきであるとする。2016-2020年の間に合計7千5百万ユーロの補助金が必要で、2016年は当初1千万ユーロ、最近1千5百万ユーロの予算が確保された。補助金の対象は住宅の所有者と企業であり、35㎡以上の屋根材に対し、4.5ユーロ/㎡、1件当たり最大2万5千ユーロが2020年まで補助される。この補助は、ソーラーパネル補助との組み合わせも可能である。

### (4) Asbestos in building rubble: a health risk? Ingeborg Smit (Antea Group Nederland)

土壌中のアスベストと建設廃材中のアスベストに対する啓発であった。建築物内の空気中のアスベスト基準は0.01/0.002fibre/cm<sup>3</sup>、土壌中のアスベスト基準は100 mg/kg。建築物中のアスベストには多くの注意は払われるが、建築プロセスの中で土壌中のアスベストは隠されることが可能であり、土壌中のアスベスト調査は、将来の問題を防ぐツールであるとする。

### (5) Asbestos in real estate: a risky investment? Arjan Endhoven (BDO)

アスベスト屋根材の除去とソーラーパネル設置に対する費用対効果の考察であった。

(6) Due Diligence at the UN Office in Vienna, Heinz Kropiunik (Aetas)

1979年に開設されたウィーンの国連事務所国際センターにおけるアスベストの適正な配慮に関する報告であった。国際センターは、総延床面積 340,000 m<sup>2</sup>、気積 1,400,000 m<sup>3</sup>、総職員数最大約 4,500 人であり、8,000 のアスベスト含有物質が確認された。プロジェクトの哲学は、「ウィーン国際センターがアスベストフリーの環境になること」「建物を使用しながらアスベストを除去すること」「誰に対してもリスクや危険を防止すること」である。以下のような概ね 14 年間の長期間プロジェクトであった。

1998 現状認識レポート

1999-2003 パイロットプロジェクト/小規模除去プロジェクト

2001-2004 全体除去プロジェクトの計画

2004-2007 4 事務所タワーのアスベスト除去

2007-2009 2 設備建物のアスベスト除去

2008-2013 会議棟のアスベスト除去

- ・健康危害をさけるための通常の空気モニタリングと通常チェックを実施
- ・150-200 人のアスベスト除去関係労働者、監督者、コンサルタント
- ・約 12 人の現場監督チーム
- ・現場 SEM 研究室を設置

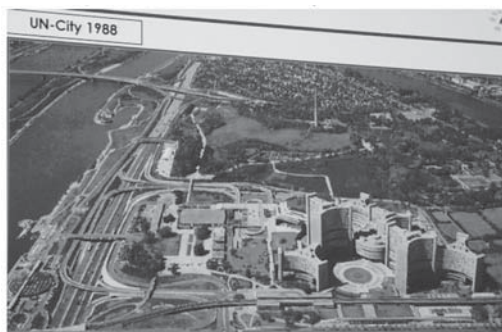


写真4 ウィーン国際センター



写真5 アスベストの使用例

(7) Shaken and stirred: asbestos in buildings after an earthquake, Terry Coleman (Coleman Consulting)

ニュージーランド、クライストチャーチ地震による建築物中の振動と攪拌に対する報告であった。4 万戸以上の住宅が潜在的にアスベストの影響を受け、修復作業においては、法律に反して、アスベストは除去されずに覆われた。教訓として以下の点を挙げている。

- ・アスベストはすべての関係者に安全性を確保するために「ゆりかごから墓場まで」を要求する。識別、管理、除去、廃棄のすべての点でコーディネートされた統合計画が必要である。
- ・すべての災害の対処は、目前のリスクだけでなく、長期間の健康リスクを管理する必

要がある。

- ・アスベストの識別は、すべての関係者の安全に貢献するファクターである。
- ・すべての工事業者が同じ基準で労働することが求められる。
- ・効果的な第3者によるモニタリングが許可されるべきである。

### Ⅲ. 日本の石綿問題総合対策研究会との比較

表1 ヨーロッパ・アスベスト・フォーラムと日本の石綿問題総合対策研究会<sup>2)</sup>との比較

	ヨーロッパ・アスベスト・フォーラム	石綿問題総合対策研究会
開始年・回数	2014年開始、第2回	2013年開始、第5回(2017年1月28日29日)
目的	ヨーロッパを主として、しかし限定はしない、アスベストに関わるフォーラムである。ヨーロッパがアスベストを使用禁止してきた一方で、世界には、禁止していない国もある。それゆえに、ヨーロッパは情報を広く伝える倫理的義務がある。さらに、使用禁止は問題の解決ではなく正確な問題認識のスタートである。	石綿のリスクと医学関連、調査と分析、管理、除去、対策、廃棄、リサイクル、建築、歴史、社会等の各分野の研究者、実務者、行政関係者、NPO等の交流を通じ、総合的の石綿対策の理解、石綿の健康リスクの削減、震災時対策、その他の課題等について、年1回の研究会の定期的開催で研究、交流することにより、多様な石綿問題の解決に寄与することを目的とします。
発表題数	19題	30題
発表者の専門	専門技術者：10人 (調査、除去、コンサルタント) 公的機関：4人 弁護士：1人 患者：1人 病院：1人 報道：1人	専門技術者：10人 (調査、除去、コンサルタント) 大学：7人 諸団体：4人 医者：1人 教師：1人 議員：1人 弁護士：1人 行政：1人 報道：1人

ヨーロッパ・アスベスト・フォーラムは、まだ2回目の開催であり、発表者は専門技術者が中心であり、またこれらの調査・分析・除去・コンサルティングに関わる企業のスポンサーの上に成り立っている。ただ、そこにとどまらず、幅広い国の公的機関の発表者も多く参加しており、総合的にアスベスト問題に取り組んでいこうとする姿勢を感ずることができる。今年は、筆者の主要関心事項でもある建築・不動産とアスベストの視点から開催された。

日本の石綿問題総合対策研究会は、毎年開催されてきて5回目を数える。発表題数も多く、今年からは、分科会形式も取られた。発表者は専門技術者の方が多いが、大学関係者や諸団体など、幅の広い参加者を得ている。このことが、いま日本において、アスベスト問題が、技術

上の問題だけではなく、広く社会的問題として認識されていることを示している。

参加者数は、石綿総合対策研究会が毎年 200 名以上を集めているのに対し、ヨーロッパ・アスベスト・フォーラムは 70 名程度の参加者であった。

#### IV. おわりに

ヨーロッパ・アスベスト・フォーラムの主要関心事は、ワークショップのトピックに現れているように、アスベストに対する適正な配慮と保険、アスベスト除去技術の向上、人々の認識の向上とコミュニケーション、被害者問題、などが主要課題と考えられる。ウィーン国際センターにおけるアスベスト除去の事例などは、まさに「1本の繊維が死に至る」という原則に基づいて着実に実行化されていると感じた。完全にアスベスト使用中止となった現時点においては、いかにアスベストフリー社会に向けて着実に進んでいくかが課題と認識されている。

#### 付記

本研究は JSPS 科研費 JP15H01757 の助成を受けたものです。

#### 注

- 1) European Asbestos Forum, "Conference Program" Sep. 30<sup>th</sup> Oct. 1<sup>st</sup> 2016
- 2) 石綿問題総合対策研究会、「第 5 回研究会配布冊子」、2017 年 1 月 28 日 29 日

